

謹 啓

皆様のご支援とご協力を得て、進めてまいりました  
第 13 回関西建築家大賞が、この程その審査を終了し  
大賞受賞者が決定いたしましたので別紙の通り発表  
いたします。

2015 年 10 月 27 日

公益社団法人 日本建築家協会近畿支部  
支 部 長 松 本 敏 夫  
表彰委員会  
委 員 長 竹 原 義 二

## 発 表

### ■第13回関西建築家大賞受賞者

長 坂 大(ながさか だい)

京都工芸繊維大学(京都市左京区松ヶ崎橋上町)

日本建築家協会(JIA)正会員 1960年生れ

### ■審査に提出された作品

#### ①「宇治のアトリエ」

用途	構造	延床面積	所在地	竣工年
アトリエ	木造	97.33 m <sup>2</sup>	京都府宇治市	2008年

#### ②「上賀茂の家」

用途	構造	延床面積	所在地	竣工年
専用住宅	木造	117.80 m <sup>2</sup>	京都市北区	2012年

### ■審査経過の概要

- ・JIA 近畿支部による関西建築家大賞は近畿支部地域で活躍する JIA 建築家に対し、そのすぐれた建築活動を顕彰する目的で発足した。今回はその第 13 回目であり、2015 年 3 月 16 日に募集を開始した。(2015 年 5 月 29 日締切)
- ・今回の募集は、近畿支部地域内に 2005 年 1 月 1 日～2014 年 12 月末日迄の 10 年間に建てられた建築 2 点の建築活動を行った建築家 1 名に対して与えられるものである。  
(別紙応募要項参照)
- ・受賞者には JIA 近畿支部から賞状、賞牌(陶芸家・鯉江良二氏作 陶製椀)が贈られる。
- ・審査員は 1 人の建築家である。今回は 横河 健氏が審査を行った。
- ・募集締切の 5 月 29 日までに 17 人の応募があり表彰委員会の書類点検を経て、書類審査(図面・写真による審査)及び現地審査を行った。
- ・審査は順調に行なわれ、10 月 7 日、横河審査建築家から審査経過及び講評が提出された。

### ■発表及び表彰

- ・表彰委員会は 10 月 27 日付をもって報道関係(新聞、雑誌等)への発表を行う。
- ・受賞者 長坂 大氏に対する表彰は、JIA 近畿支部大会 in 奈良(2015 年 11 月 13 日、会場: 日本聖公会奈良基督教会)の表彰&鼎談記念イベントにおいて行う。

### ■表彰委員会は次のメンバーで構成された。

支部長	松本敏夫(松本敏夫建築工房アスク)	
表彰委員長	竹原義二(無有建築工房)	
委員	江副敏史(日建設計)	遠藤秀平(遠藤秀平建築研究所)
	木原千利(木原千利設計工房)	木村博昭(京都工芸繊維大学)
	坂本 昭(坂本昭・設計工房 CASA)	森崎輝行(森崎建築設計事務所)
	山本光良(昭和設計)	吉村篤一(建築環境研究所)

## 第13回関西建築家大賞

### 受賞者プロフィール



長坂 大（ながさか だい）／京都工芸繊維大学

1960年 神奈川県生まれ

1982年 京都工芸繊維大学住環境学科卒業 博士（工学）

1982～85年 松永巖・都市建築研究所

1985～89年 アトリエ・ファイ建築研究所

1990年 Mega 設立

1989～2002年 京都工芸繊維大学造形工学科助手

2003～2007年 奈良女子大学人間環境学科准教授

2008年 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授、工学博士

#### 主な受賞歴

1990年 SD レビュー 鹿島賞受賞

1992年 環境芸術大賞受賞

1996年 ふるさとの顔づくり設計競技 建設大臣賞受賞

2009年 神奈川県建築コンクール 一般建築物部門 優秀賞受賞

2010年 神奈川県建築コンクール 住宅部門 優秀賞受賞

## 第 13 回関西建築家大賞 審査講評

審査建築家 横河 健

2015 年 9 月 25 日(金), 26 日(土) の二日間に渡って現地・選考審査を行わせていただきました。対象となった作品群、候補建築家の仕事は事前の書類審査をクリアーして現地審査の対象となっただけあって、そもそもレベルの高い作品群でした。中でも私なりのスクリーニングを通過した最終候補者たちのスキルと設計に向かう姿勢は驚くべきレベルに達している人たちだと言えるのではないのでしょうか。

さてこのような関西を代表する建築 / 建築家を選ぶ賞の審査ですから気楽に・・・と云う訳には行きません。建築の賞審査と云うものは、学会賞にしろ JIA の新人賞にしろ、たいていは目利きによる複数の審査員によって選ばれるものであって、最終的には審査委員同士の合議によって決まることが多いものです。しかしこの「関西建築家大賞」に限っては一人の審査員による独断が許されるものです。この独断が危ない・・・独断は独断で良いのですが、独断に筋が通っていなければならないし、ブレがあってはならないと思うのです。そのため私にとってはこの二日間否それ以上、東京に戻ってからかなりキツイ思いをしました。とくに現地審査の第一日目の最初に拝見する建物を見る目(私の眼)と、二日目の最後に拝見・体感する建築を見る目との間に私自身の精神構造の(肉体的な疲れも)ズレがないように・・・勤めることが大変キツイものでした。しかし、そういった意識は最初から気をつけていたので、その勤めもなんとか全う出来たのではないかと思います。しかしまだ続きがあります・・・現地審査を終わってもハッキリ一人に絞ることが出来なかったからです。最終的に現地審査を終えた段階でも四人(本多さん、長坂さん、岸下さん、畠山さん)に絞ってはいたものの、なかなか一人を選出することは出来ませんでした。東京に戻ってから、つまりより冷静に判断しようともスパッと決めると云うわけにはいかないものです。私は現地審査の各作品を拝見している道々記録を付けて行きました。自分自身の見方の記録で走り書きのメモのようなものですからすべてを公表する訳にも行かないのですが、そのときその時の印象批評とともに私なりの点数を付けていました。2 作品ずつ見させてもらっているのでその合計点が極端に離れば選択も出来るのですが、合計点では差が開きません。つまり一つの作品で感心してももう一つでは「おやっ」と思うことがあります。

しかしながら二つの作品の合計点も然ることながら、やはり関西建築家大賞を受賞するに相応しい人物・建築家として過去の仕事や建築家として社会の貢献度など含め、総合的な判断として長坂大さんを選出するに至りました。

長坂さんの作品「上賀茂の家」と「宇治のアトリエ」には私の印象としては差がありました。詳しくは後の評を読んで頂くとして、二つの作品には建築家の思い、集中力、こだわり、解決に導く決定力に差を感じました。しかしながら長坂さんの今までの仕事における真摯な姿勢や社会に問う姿勢は研究者としてのみならず建築家の社会的立場を律し、また建築の教育者としてもその立場を全うして来たことも加えてみる必要があると思いました。つまり、これらの総合力として選択に至ったと云えます。

以下、具体的な各 12 作品の審査講評です・・・(現地審査見学順)

魚谷繁礼 . . . . . 67 + 70 -  $\alpha$  = 137 -  $\alpha$  = 135

魚谷さんの西都教会は、一昨年私が新建築の月評を担当していた時に気になって取り上げたことがあり、期待していた作品である。しかし期待が裏切られたとは言わないが、教会の主室となる礼拝空間が歪んで見えるコトがまず納得が行かないところである。アプローチしてくる方向から対角方向に説教台があることに加えて、右手の壁が敷地の関係から他の三面の壁と異なる光の取り入れ方をしていて、つまり残念ながら建築の断面計画が平面の静謐さを失わせているのではないかと思われた。67

京都型住宅モデルは幹線道路から一本露地を入ったところであって、平入で前後に風が流れる、いわゆる京都の町家形式を継承していて嬉しい。構造計画や防火の手立て、さらには縦格子などの意匠的な工夫もあり悪い計画ではないが、建て売りのモデル住宅と云うことは設計・提案段階つまり計画時では住人が定まっていない。(現在の住人と計画案が必ずしも合っていない訳ではないが) つまりインフィルとしてのオブションの工夫が重ねられていると良かったのではないか? その意味では現建物の空間の構成・寸法、意匠が少し特殊過ぎるように思えた。70 -  $\alpha$  (数多く他の賞をすでに獲得している)

長坂 大 . . . . . 80 + 73 = 153

長坂さんの最初に見た住宅「上賀茂の家」の印象は素晴らしかった . . . 外観・妻側の先端についた換気ガラス窓の開いた姿を見ても、また道路側長手のエレベーションと三段ほど上がった玄関への位置、すなわち内部はいくつかのスキップした床レベルを持っているが、その基準となる位置が玄関の床レベル設定となっていて、各室・設定された領域(テリトリー)へと分節されて行くなどかなり計算されたエレベーションだと云うことが解る。末端の一番高いデッキレベルについた建具も下框が床レベルに隠れる隠し框とするなど長手に眺望を開くだけでなく、前後の抜け感を作ることも忘れない。内部の造作はモルタル仕上げの厨房を作るなど特殊な意匠が嫌味なくまとめられている。これらは住人であるクライアントのお陰とも言えるが、そのライフスタイルを見抜いた建築計画とのコラボレートと言える。80

かなり好評価を持ったが逆に「宇治のアトリエ」は「おや?」と思った作品だ . . . . 以前から写真で見ていたので、それなりに期待をして見学に挑んだ。しかしアプローチして行く道路から最初に目に飛び込んでくるのは、建物を斜め手前からサイドのエレベーションを見ることになるのだが、これが何とも貧相な印象を受ける。片流れ屋根と壁立面のプロポーションが悪いのに加えて敷地境の目隠し? 植栽が「隣りとは関係ないよ」とあたかも言いたいがための設えである。当然のことながら建築は単体で自立的にある訳ではなく、ランドスケープと建築は一体でなければならない。植栽関係はクライアントでもある宮城さんの技であるなら、現計画の考え方には疑問を持たざるを得ない。

さて、導入口である主扉の設えや内部空間の計画自体は悪くない。しかしアトリエの平等院に向かう側の高さが必ずしも適切だと思えなかった。つまり片流れの勾配が強いことは、片流れの屋根がこの計画に適切であったかどうか . . . つまり切り妻または変形の切り妻でも良かったし、寄せ棟さらには入母屋でも良かったかも知れない。言いたいことはこの建築、一室空間ではあるがスタッフアトリエと宮城さんの書齋的空間とに分節されていて、書齋空間について平等院側の大開口には納得するものの、建築全体の空間バランスからするとスタッフ側の北側の立面高さ故に窮屈に感じてしまうのは私だけだろうか? と云うところだ。73

畠山文聡 . . . . . 76 + 76 = 152

畠山さんの建築は手堅い . . . 逆に云えば今ひとつ思い切りが足りない、と云えば言い過ぎかも知れないが、組織事務所としての大学の研究施設と自らの会社の研修施設を計画するにおいてはこれ以上の無理は出来ないのかも知れない。「近畿大学農学部第2共同研究棟」はその特殊なプログラム故に可能なこと不可能なことが示された上に設計がなされた。建築にとって、いわゆる優れた内部空間を持たないものの、大学キャンパスという特殊な敷地に相応しい利用計画から、不思議な外壁を構成している「ジャカゴ壁」つまり合板製造過程で排出する木芯を詰めたジャカゴパネルを含めた建築モジュールの割り出しに至るまで、研究施設としての極めて合理的な決定がなされている。76。

「NTT 西日本研修センター」にしてもいわゆる研修施設ビルディングタイプに満足することなく、研修プログラム・人数・時間を分析した上で光、自然環境との連鎖を取り込む新しい建築計画の解き方に挑戦している。76。  
いや、「近畿大学農学部第2共同研究棟」にしても「NTT 西日本研修センター」にしても2作品とも密度高く設計が詰められていて、畠山・永石の優秀なユニットによる設計者の建築に向かう姿勢は正しく前を向いて気持ちが良かった。

菅正太郎 . . . . . 65 + 62 = 127

菅さんは2作品とも住宅である . . . ただ、残念ながら最初に見学を予定していた「Hexa」は外観だけで内部に入ることが出来なかった。それなりの事情はあるのだろうが、審査日にクライアントから鍵を借りることが出来ない程度に関係であると言うことが実証されてしまった訳だ。これは、建築そのものの評価と関係が無いと思われる方もおられるかも知れないが、そうではない、とくに「住宅」というある種特殊な建築プログラムを解こうとする計画行為は、クライアントと建築家は絶対的な信頼関係が必要だと信じるからである。65。

「Helix」は挑戦的な計画で GL 階をピロティーで浮かせ、床はスパイラル状に連続すると云う伸びやかさを持っている。ただ計画がトータルの計画行為の結実したものとして、大文字の「建築」に至っていない。このことを解説すること自体難しいことではあるが、例として . . . スパイラル状に昇って行く床の連続は、それぞれの機能空間の床はフラットなので当然レベル差が生まれる。例えば、無理矢理スロープでつないでいるそのジャンクションの処理に納得出来る処理をして欲しかった。またそもそも構成されるいちいちの工夫が必要以上に多過ぎるようになってしまし、建築ポキャブラリーは設計者のオリジナルではないのでプラスポイントとなる新しさは感じる事が出来なかった。62。

本多友常 . . . . . 70 +  $\alpha$  + 75 = 150

「高野口小学校建築改築・改修」は本来のあるべき姿(建築と市民との繋がりに於いて)として、歴史を継承するための努力が建築家の提案から生まれ教育関係者の理解とともに結実したものである。日本以外の国々では当たり前に行われて来たことが、ようやく実現された好例であり、多くの評価を受けているのは当然である。惜しむらくは、建築計画上の創造性が弱かったことと(本設計者と関係がないかも知れないが)小学校全体計画の中、無造作に配置された遊泳プールが悲しい。70 +  $\alpha$

最後に見せて頂いた「樹林の家」はさほど期待をしていなかった分ある種の衝撃があった。崖地と云うことから(今回の審査させて頂いた住宅の3作品が何故

か崖地に計画されていたのでその計画比較も楽しかった) 鋼管杭から鉄骨のフレームを張り出しその上に木造の計画がされているのだが、敷地は対岸の明石に向かって円弧状に開いていることを考慮しながら、平面計画もそれぞれの機能用途に添って向きを変え、それぞれの内部空間が特徴づけられている。木造は平屋で構成され適度な内部高さに押さえられていて快適である。また崖地の下、敷地内から見返すと建物の床裏を見上げることになるが、この床裏も仕上げられていて本多さんの丁寧な仕事の姿勢を知ることができる。75。

岸下真理 . . . . . 78-  $\alpha$  + 78 = 156-  $\alpha$

最初に見させてもらったのが「日本圧着端子製造」のオフィスビルだ。この作品も「西都教会」と同じく一昨年私が新建築の月評を執筆していた時から気になっていたものである。ただ、当時やけに学生じみた建築計画(解き方が一本気)で、こんなに執務面積に比較して共用空間(上下の動線)が大きく取られている計画は、話しとしては解らないではないものの普通のオフィスビルとして成立するのか?怪しいと思っていた。実際拝見するとエントランスを入ったところから普通のオフィスビルとは一味、二味違うことがすぐ解り、どこか呉服屋さんの帳場のような雰囲気、しかもその場で靴を脱いで上がる近代オフィスビルとは初めての体験であった。そのほかもコトほど左様に普通の近代的オフィスビルの設え(使い方プログラムが建築計画に与えること)と異なり、会社の使い方としてとても良く来ていて納得なのだが、良くも悪くも一切はオーナーの思考に応えるべく構築された特殊解である。78 -  $\alpha$ 。(数多くの賞を受けている)

さてもう一つ、住宅「甲陽園目神山町の家」を拝見した。通常では尻込みするような崖地での計画である。他の崖地での計画と比較しても際立って厳しい条件と思える中、スキップした床レベルからそれぞれの機能と眺望を確保し、床・壁・天井のすべて(構造材を除く)をラワン合板で仕上げ、丁寧に解いたローコスト住宅であり、個別の機能空間として成立させながらの連続空間である。計画して来たことなのか現場での臨機対応なのか?良く解らないが、写真から受ける印象より数段良い評価が出来る。78。

## 第13回関西建築家大賞 写真クレジットについて

※写真掲載時には必ず撮影者名を入れて下さい。

【受賞者】 長坂 大 (ながさか だい) 京都工芸繊維大学

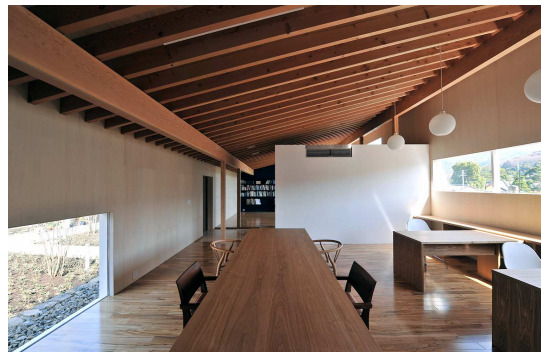
【作品名】 上賀茂の家

【撮影者】 杉野圭 (下記2枚とも)



【作品名】 宇治のアトリエ

【撮影者】 杉野圭 (下記2枚とも)





# 第13回「関西建築家大賞」募集

## 趣旨

(公社)日本建築家協会(JIA)の会員建築家はその業務において歴史的な文化を継承し、自然環境をまもり、安全で快適な環境をつくり、人々の共感と理解に支えられつつ、人間の幸福と社会文化の形成に寄与すべく日々努力しております。

この建築家の職能をよりいっそう明確なものとするために JIA 近畿支部では近畿支部地域で活躍する建築家に対し、そのすぐれた建築活動を顕彰する関西建築家大賞の制度を設置しております。

本賞は、上記の JIA の理想にもとづき、しかも長期にわたって機能的造形的デザインの力量を実現した建築設計の実績、すなわち過去 10 年間に実現もしくは提示された 2 つの作品を対象とし、唯一人の審査建築家の価値観によって一人の建築家を選考するものです。

1991年に発足したこの大賞の第1回から第12回までの審査建築家と大賞受賞者は次の方々です。

第1回 審査建築家 川崎 清氏 受賞者 出江 寛氏	第7回 審査建築家 林 昌二氏 受賞者 高口恭行氏
第2回 審査建築家 高橋龍一氏 受賞者 木原千利氏	第8回 審査建築家 穂積信夫氏 受賞者 木村博昭氏
第3回 審査建築家 内井昭蔵氏 受賞者 坂 茂氏	第9回 審査建築家 出江 寛氏 受賞者 江副敏史氏
第4回 審査建築家 東 孝光氏 受賞者 竹原義二氏	第10回 審査建築家 坂本一成氏 審査建築家奨励賞 森下 修氏
第5回 審査建築家 原 広司氏 受賞者 遠藤秀平氏	第11回 審査建築家 香山壽夫氏 受賞者 矢田朝土氏
第6回 審査建築家 阪田誠造氏 受賞者 坂本 昭氏	第12回 審査建築家 長谷川逸子氏 受賞者 生山雅英氏

今回の審査建築家は 横河 健氏 です。

## 【応募要項】

**資格** JIA 正会員であること。但し、非会員の方が応募しようとする場合は応募締切日の 5 月 29 日までに JIA 正会員資格を取得していること。(JIA 正会員資格を得るには、以下の手続きが必要です。①所属支部へ入会申込書の提出、②理事会での入会承認、③入会金・年会費の払込 ※手続きには約 1 ヶ月かかりますので必ず事前に事務局までお問合せ下さい。) また、過去に本大賞受賞者の方は応募不可とします。

**作品** 2 点。近畿支部地域内に完成した建物。前回は応募作品も可。  
2005 年 1 月 1 日～2014 年 12 月末日迄の作品とする。(※原則として、完成日は検査済証の日付とします)  
近畿支部地域内とは、滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県、大阪府、兵庫県をいう。

**日程**

・応募期間	2015 年 3 月 16 日～5 月 29 日
・書類審査	〃 6 月
・受賞者発表	〃 10 月頃
・現地審査	2015 年 7 月～9 月中旬
・表彰式(予定)	〃 11 月頃

**登録費** 10,000 円 (※必ず応募締切日の 5 月 29 日までに振込頂くか、近畿支部事務局まで直接ご持参下さい。)

**応募方法** 応募を希望される方は、事前に応募申込書をお送り頂き (E-Mail または FAX)、下記提出図書を各作品毎にまとめて近畿支部事務局までご提出下さい。(下記提出図書①、④、⑤は指定用紙となりますので、専用ホームページよりダウンロードして頂くか、応募資料請求用紙 (裏面) にてご請求頂ければお送り致します。)

## 【提出図書類】

- ①応募申込書 (※E-Mail または FAX にて事前に事務局までお送り下さい。)
- ②図面 (配置図、平面図、立面図、断面図、主要矩計図) A3 版図面 (見開き A2 サイズ) に製本。※クリアファイルも可
- ③(1) 写真データ 5～10 点 (JPEG データで解像度 300dpi、長辺 1200pixel 程度のものを CD-R に保存のうえ提出下さい)  
(2) 写真 5 枚～10 枚カット (A4 のクリアファイルにおさめる) ※(1)(2) は内容の異なる物でも可
- ④建築概要：発注者、施工者、構造、用途、階数、高さ、面積
- ⑤設計趣旨：800 字程度
- ⑥検査済証の写し  
※確認申請不要物件の場合は不要理由を明記したものをご提出下さい。

※①、④、⑤は指定用紙に記入のこと。(ホームページよりダウンロード可能 <http://www.jia.or.jp/kinki>)

以上の提出図書類を【各作品】毎に収めて 2015 年 5 月 29 日(金)までにご提出下さい。

※封筒、図面、写真、にそれぞれ氏名・作品名を明記

※作品を持参の場合は 9:30～18:00 の時間内(土日祝日は除く)、郵送の場合は当日消印有効とします。

応募提出図書類は 2015 年 11 月以降に返却致します。また提出図書類作成・送料に要した費用は応募者負担とします。

**付記** 応募作品や図面・写真等に関する著作権、特許等は応募者もしくは権利保有者に帰属します。ただし、作品発表に関する権利、及び発表に際して作成する制作物の著作権は主催者に帰属するものとします。

## 【審査建築家 及び 表彰】

- ①審査建築家 横河 健氏 (よこがわ けん)
- ② 表 彰 大賞1名。該当者がいない場合は、これに準ずる表彰を行うことがある。  
審査結果は、JIAのWEBサイト及び会報誌、新聞及び雑誌等に公表する。表彰関連イベントは未定。
- ③ 賞 賞状、賞牌 (陶芸家・鯉江良二氏作品)

付 記 受賞者は、JIA 近畿支部が関係資料を掲載、展示など、啓発の目的に使用する場合は無償で貸与すること。

### 横河 健氏 (審査建築家) プロフィール

#### 略 歴

建築家・日本大学理工学部特任教授。東京都生まれ。

日本大学芸術学部在学中にワシントン州立大学交換留学を経て、同学部卒業、1976年 クレヨン&アソシエイツ共同設立、1982年 横河設計工房設立。

2003年から2013年 日本大学理工学部教授、日本大学芸術学部、慶応義塾大学、日本女子大学、東京大学大学院にて非常勤講師を歴任、2014年より日本大学理工学部特任教授、現在に至る。

主な受賞として、1989年 「警視庁日比谷公園前派出所」にて東京建築賞/都市計画局長賞、1999年「グラスハウス」にて日本建築学会賞、デュポン・ベネディクタス賞、2001年「CESS/埼玉県環境科学国際センター」にてBCS賞、2002年 同作にて日本建築家協会環境建築賞、日本建築学会作品選奨、2003年「武蔵野市立 0123 はらっぱ」にて日本建築学会作品選奨、2004年「トンネル住居」にて日本建築家協会25年賞、2006年「HIROO COMPLEX」にてCSデザイン大賞、2011年「杉浦邸/多面体 岐阜ひるがの」にて日本建築家協会賞、他多数受賞。

2012年 作品集「KEN YOKOGAWA landscape and houses」発行。

■お問合せ・提出先 公益社団法人 日本建築家協会近畿支部  
表彰委員会 (事務局)  
〒541-0051 大阪市中央区備後町 2-5-8 (綿業会館)  
TEL06-6229-3371 E-Mail [jia@bc.wakwak.com](mailto:jia@bc.wakwak.com)

■振込先 (登録費)  
三菱東京UFJ銀行 大阪営業部  
普通預金 1147965  
公益社団法人日本建築家協会近畿支部

きりとせん

## 第13回関西建築家大賞 応募関係資料請求用紙

(FAX返信 06-6229-3374)

フリガナ 応募者氏名	
勤務先	
連絡先	〒 TEL _____ FAX _____ E-Mail _____
種別 何れかに○を	<input type="checkbox"/> JIA 正会員です <input type="checkbox"/> JIA に入会していません (入会資料送付を希望します)

※応募関係資料は専用ホームページ (<http://www.jia.or.jp/kinki>) よりダウンロードすることも可能です。